

11月

# 新着図書

## 谷から来た女

著者名： 桜木 紫乃  
出版社： 文藝春秋

アイヌ紋様デザイナー・赤城ミワ。彼女といると、人は自分の「無意識」に気づいてしまう。自分の気持ちに、傷ついてしまう——。そして、彼女は去ってゆく。忘れられない言葉を残して。

桜木紫乃の真骨頂、静かに刺してくる大人の物語。

## 家族解散まで千キロメートル

著者名： 浅倉 秋成  
出版社： KADOKAWA

実家に暮らす29歳の喜佐周（きさ・めぐる）。古びた実家を取り壊して、両親は住みやすいマンションへ転居、姉は結婚し、周は独立することに。引っ越し3日前、いつも通りいない父を除いた家族全員で片づけをしていたところ、不審な箱が見つかる。中にはニュースで流れた【青森の神社から盗まれたご神体】にそっくりのものが。「いっつも親父のせいでこういう馬鹿なことが起こるんだ！」理由は不明だが、父が神社から持ってきてしまったらしい。返却して許しを請うため、ご神体を車に乗せて青森へ出発する一同。しかし道中、周はいくつかの違和感に気づく。なぜ父はご神体など持ち帰ったのか。そもそも父は本当に犯人なのか——？

## 再愛なる聖槍

著者名： 由野 寿和  
出版社： 幻冬舎

クリスマスイヴに起こった、前代未聞の「観覧車ジャック」！妻との離婚以来5年ぶりに会った愛娘とともに、テーマパーク・ドリームランドを訪れた元刑事の仲山。楽しい時間は束の間、2人が観覧車に乗った直後、何者かによって観覧車が乗っ取られ、人質となってしまふ。「小人」を名乗るジャック犯に連絡役として指名された仲山と娘・凜の運命やいかに。そして、地上で事件解決の指揮を執っている貝崎は、5年前のクリスマスイヴに起こった未解決事件に関して互いの秘密を握り合う因縁の相手で——。絡み合う二つの事件とそれぞれの思惑。

## 架空犯

著者名： 東野 圭吾  
出版社： 幻冬舎

『白鳥とコウモリ』の世界再び——シリーズ最新作

## 下町サイキック

著者名： 吉本 ばなな  
出版社： 河出書房新社

「友おじさん、どうして人は色とかお金とかに目がくらむの?」「人はいつだって、今の人生をとにかく変えたいと思ってるからだよ。」下町で生まれ育ったキヨカは幼いころから、目に見えないものが見える能力を持っていた。中学生になって、ご近所に住む友おじさんが運営する「自習室」の空間を、その力で清めるアルバイトをしていた。そんなある日、母と離婚して家を出た父が、自殺未遂を凶ったという連絡が入って——。人と違う能力を持つ少女が世界を生き延びるための、暮らしの知恵が詰まった最新長編！

## わたしたちに翼はいらない

著者名： 寺地 はるな  
出版社： 新潮社

他人を殺す。自分を殺す。どちらにしても、その一歩を踏み出すのは、意外とたやすい。最旬の注目度No.1作家最新長篇。同じ地方都市に生まれ育ち現在もそこに暮らしている3人。4歳の娘を育てるシングルマザー、朱音。朱音と同じ保育園に娘を預ける専業主婦、莉子。マンション管理会社勤務の独身、園田。いじめ、モラハラ夫、母親の支配。心の傷は恨みとなり、やがて……。『生きる』ために必要な救済と再生をもたらすまでのサスペンス。

## 迷惑な終活

著者名： 内館 牧子  
出版社： 講談社

やり残したことにケリをつけるのが、本当の終活だ。年金暮らしの原夫妻。妻の礼子はいわゆる終活に熱心だが、夫の英太は「生きているうちに死の準備はしない」という主義だ。そんな英太があるきっかけから終活をしようと思いつく。それは家族や他人のためではなく、自分の人生にケリをつけること。彼は周囲にあきれられながらも高校時代の純愛の相手に会うため動き始める。やがて、この終活が思わぬ事態を引き起こし——。『終わった人』『すぐ死ぬんだから』『今度生まれたら』『老害の人』に続く著者「高齢者小説」第5弾！

弁当にも使える やる気1%ごはん作りおき ソッコー常備菜500

著者名： まるみキッチン  
出版社： KADOKAWA

「誰でも簡単につくれる」をモットーにした料理をSNSに投稿する料理家。身近な材料で手間を省いた、アイデアに富む実用的レシピは若い世代からファミリー層まで支持されている